

新刊

□大橋広好・邑田 仁・岩槻邦男（編）：新牧野日本植物圖鑑。1458 pp. 2008. ¥25,000 + 税. 北隆館. ISBN: 978-4-8326-1000-2 C0645.

本書は植物図鑑として定評のある牧野圖鑑の新版であり、牧野富太郎博士没後 50 年を機会に出版されたものである。牧野富太郎自身による『牧野日本植物圖鑑』（1940）、同改訂版（1949）、前川文夫、原 寛、津山尚らが監修した『増補版牧野日本植物圖鑑』（1956）、同じく三氏による『牧野新日本植物圖鑑』（1961）、小野幹雄、大場秀章、西田 誠編集の『改訂増補牧野新日本植物圖鑑』（1989）に続く六代目となるのか。

本書では、以前の版と比べて、次のような部分に改訂がなされたという。すなわち、検索表、学名、学名の著者名、記述と用語図解、学名解説、の五つの部分である。このうち検索表は既存のものを手直ししたというのではなく、新たに制作されたものである。検索表は種子植物の検索表とシダ植物の検索表に分かれ、それぞれ 88 ページ、10 ページと大部のものになっている。種子植物の検索表では、葉が緑色かどうか、植物体が水上にあるかあるいは水中にあるか、といった分かりやすい言葉を用いて目的の植物に辿り着くように工夫されている。検索表そのものに用いられている語句も十分に吟味がなされていて、かなり手間をかけたのではないかと推察する。図書の購入予算が限られた学校教育や社会教育の現場で、本書一冊で何とか目的の植物の名前を知ることができるようにと、新たに検索表を制作した努力は評価できるだろう。

それでも検索表ではいくつかの術語は使わざるをえない。これは主に印刷スペースの関係である。そうした、難解な術語に遭遇した時に参照するのが牧野圖鑑定番の「植物の用語図解」である。しかし、用語図解はこれまでどおり巻末にまとめられ、参照するのが少し不便である。

「近年、分子系統学による系統解析と分類

学の基本である形態学の深化とによって」（本書より）、これまでとは異なる植物分類体系の構築の試みが現在盛んになされているのは周知の事実である。例えば、広義のユリ科が細分されつつあることに戸惑う読者も多いのではないだろうか？種子植物における科の扱いは現在は未だ落ち着いていないという認識に立ち、本書では我々がよく馴染んだエングラ体系にもとづいた配列を継承している。本書が植物図鑑という位置付けであるから、これは順当な扱いといえるだろう。学名は、今では我国のスタンダードとなった感のある、梶田 忠・米倉浩司の『BGPlant 和名—学名インデックス』（YList）に準拠している。

巻末の学名解説もまた牧野圖鑑の定番となっている。あまり目立たないところかもしれないが、随所に工夫がこらされている。とくに属名解説では専門家の立場から大幅な加筆が行われ、ちょっとした読み物としての性格すらもっているといえよう。野外での自然観察会のネタ本としても使えそうだ。活字のサイズは以前の版と変わっていないが、行間に少し余裕があり、印刷技術の向上もあってか、これまでよりも読みやすくなったように思う。

牧野圖鑑の線画はやはり素晴らしい。文字解説では触れられていないことが数多く線画で表現されている。経験を積みれば積むほどそのような思いを強くする。

（門田裕一）

□高知県・高知県牧野記念財団（編）：高知県植物誌。A4. 844 pp. 2009. ¥8,400 + 送料. ISBN: 978-4-9904108-1-0 C3545.

高知県は牧野富太郎博士の出身地であり、植物が豊富であるにもかかわらず（あるが故にというべきか）、植物誌が刊行されていない数少ない県の一つだった。土佐植物研究会は 2001 年に、標本に基づく植物誌編纂事業に着手し、一般県民にも協力を求めて新たに 10 万点を超える標本を得た。これに

既存の標本を加え、牧野植物園を拠点に整理と編集作業が行われた。これだけの広さの県で、足かけ10年で刊行にこぎつけたのは、たいへんな努力だったと思う。635頁にわたる植物目録が主体で、ざっと数えて3,200種類が記録されている。それぞれの種類については簡単な特徴記述、関係文献、標本の引用のほか、市町村単位の分布図がすべてに添えられているのがユニークである。注目すべきは、シロツメクサやドクダミのようなごくありふれた種類でも、標本を丹念に採集し、引用してあることである。植物誌というと、とかく「貴重な」種類に重点が置かれ勝ちだが、本書では平等に扱われている点、別なユニークさを感じる。それにしても「こんなくだらな種類の本ばかりたくさん集めて…」と、文句のタネになったのではなからうか。その評価は将来にまつほかはない。

巻末にすべての種類の開花結実期と垂直分布を示す図、および市町村別の分布表がある。この分布表は今後の地域研究に、チェックリストとして役立つだろう。付録として、高知県植物誌標本画像検索システムと題するDVDがつけられており、簡単な操作で本書に関わるおしば標本を閲覧することができる。

購入希望者は牧野植物園(781-8125 高知市五台山 Tel. 088-882-2601)へ連絡のこと。送料は地域により異なり、東京ならば600円とのこと。(金井弘夫)

□安田 守・沢田佳久：オトシブミハンドブック。80 pp. 2009. ¥1,200 + 税。文一総合出版。ISBN: 978-4-8299-1021-4 C0645。

「本書は、野外でオトシブミやオトシブミが葉を巻いてつくる揺籃(ようらん)に出会うための案内書、出会うための手引書である」。本書の巻頭にある文章を引用したものであるが、内容はこの文章に凝縮されているといえるだろう。写真担当は「生きもの写真家」の安田氏、解説は兵庫県立人と自然の博物館スタッフの沢田氏。

雑木林の林床に「落とし文」を見つけることは誰にも記憶があるだろう。心が踊り立つ新緑の頃の光景である。機会に恵まれば、オトシブミ達が実際に「落とし文」を作っている最中に出会うこともあるだろう。

オトシブミとは葉を巻く性質をもったゾウムシの総称で、分類上はゾウムシ上科オトシブミ科オトシブミ亜科の全てとチョッキリ亜科の一部を指す(本書より)。内容は、序に当たる部分から、オトシブミ亜科一覧、チョッキリ亜科一覧、揺籃検索表が続き、本体は見開き1ページないし2ページにオトシブミ類各種の実寸写真と拡大写真、食草・食樹、揺籃の形態、揺籃づくりの様子が描かれている。とりわけ、オトシブミの拡大写真は見応えがある。落とし文は葉を円筒形に巻いたものだけではないことを知ってはいたが、実にいろいろな揺籃があることに驚かされる。また、揺籃の形態だけではなく、制作方法もさまざまである。本書は理屈抜きで楽しめるオトシブミのガイドブックと言えるだろう。(門田裕一)